

# 学生主体のイベントを通じた意識の変化

## ——第3回キャリアイベントにおけるアンケート結果から——

創生ジャーナル Human and Society 編集委員会

### 1 はじめに

筆者が所属する新潟大学創生学部も、新潟大学37年ぶりの新設学部として誕生して早2年弱が経過した。「新設学部として産声を上げたばかりの状況下にある今こそ『初年次教育』と『生涯キャリアデザイン』の接合点を問うことに大きな意義がある」との認識の下、新潟大学創生学部有志教員により組織されたキャリア創生研究会（仮）は、過去2年にわたり計3回の学生主体キャリアイベント（以下、キャリアイベント）を支援してきた<sup>1</sup>。我々は、学生たちがいかにキャリア意識を育み、それが彼らの大学での学びにどのように結びついていくのかに着目しつつ、経時的にその取組を支援してきたわけである。そうしたなかで2019年1月16日に開催された今回のキャリアイベントは、大学における彼らの学びもちょうど半分を経過したところで開催されたという意味では、一つのターニングポイントになる。

そこで、本稿に課せられた課題は、第3回キャリアイベントの運営スタッフメンバーの学生たち（以下、学生メンバー）および、一般参加学生へのアンケート調査をもとに、キャリアに係る学生の意識について整理、分析することで、今後の初年次向けのキャリア教育をいかに設計していくのか、また他方で、彼らが卒業・就職に向けて本格的にその学びを加速させていくにあたって、どのような指導やサポートが必要なのか等について検討していくうえでの有益なデータを提示するところにある。

### 2 アンケート

#### 1) 方法

学生メンバー4名（女性4名）に対して、イベント実施前後にアンケート調査を実施した。事前アンケートは2019年1月10日、事後アンケートは同年1月16日のイベント当日の終了後に、それぞれ実施された。

事前アンケートは、イベントの主催者と参加者、両者の視点からイベントに期待すること、イベントを通じて得たいことを問うような5つの質問から構成されている。具体的には、①イベントに期待していること、②ゲストに聞きたいこと、③どのような時間となるかのイメージ、④③のために重要なこと、⑤その他意気込みなど、以上5問である。

次に事後アンケートは、事前アンケートと同様にイベントの主催者と参加者、両者の視点に対して問う5つの質問から構成されている。内容は、イベントを経験しての自身の変化、および事前のイメージと実際との違いを問うものとなっている。具体的には、①イベントを終えての率直な感想、②イベントを通じての意識や価値観の変化、③参加して感じた主催者と参加者の違い、④予定通りにいった点と課題、⑤感想や意見、以上5問である。

また事後アンケートと同時に、学生メンバー以外の一般参加学生（13名。うち女性8名、男性5名）に対してもアンケートを実施した。内容は、当該イベントを通じて理解したことや、さらに生

<sup>1</sup> この辺りの経緯については、堀籠（2018）を参照。また本稿は、第1回の学生主体キャリアイベントにおけるアンケート結果報告（創生ジャーナル Human and Society 編集委員会、

2018）と対比可能なように意図して、可能な限り文体・構成をそろえるように執筆している。

Table1 イベントに期待していること に関する記述

ID	記述の概要
1	公務員の実際のようなすを知ることで将来のイメージを作ること
2	公務員の仕事について具体的なイメージを持つこと
3	自分の聞きたいことがたくさん聞けること
4	社会人の方と交流することによって、普段考えることのない自分のキャリアについて考えるきっかけとなること 第一線で活躍されている方のお話を聞くことも重要であると思うが、身近な社会人と接することでより現実的にキャリアを考えることができること

Table2 ゲストに聞きたいこと に関する記述

ID	記述の概要
1	公務員は安定した職業という利点があるとよく聞が、公務員ですら安心はできないという意見も最近聞くことがある。公務員の安定性について聞きたい
2	実際に働いてみてギャップがあったか
3	ワークライフバランスについて。実際に働いている人にどのような感じで仕事と家庭を両立しているのか
4	ゲストとして決定し、当日に至るまで不安・不満な点はあったか ゲストとして参加して満足なイベントであったか

Table3 どのような時間となるかのイメージ に関する記述

ID	記述の概要
1	現在この学部では、公務員になるまでの間や、なつてからの経験について話を聞くことが難しい為、経験者から実際に話を聞くことで、迷っていることなどの助けになればよいと思う
2	創生学部生とゲストの方が活発に交流・対談することで、学生の将来の不安や疑問について解消できる機会になってほしい
3	イベントの参加者には公務員の仕事について知ってもらえる有意義な時間 ゲストの方には創生学部がどのようなことを学んでいる学部なのか知っていただきたい
4	参加者にとっては、イベント参加前と参加後に変化がみられる(考え方が変わった、意欲的になった等)時間 ゲストにとっては時間を割いてまで、やりがいのあるイベントであったと実感していただけるような時間

じた関心、将来の志望等について問う 4 つの設問から構成されている。

なお、上記 3 つのアンケートは、いずれもアンケート調査票を配付しての質問紙調査であり、回答形式は自由記述（FA）形式とした。

## 2) 結果と考察 1 (事前アンケート)

はじめにイベント開始前の時点で、学生たちがイベントに対して何を求め、いかなる意識で臨んでいたのかを示すため、①から⑤の設問への回答について検討した<sup>2</sup>。

①イベントに期待していること 今回のイベントに臨むにあたり、何を期待するかについて率直

に問うた設問①への回答について検討を行った。その概要は Table1 のとおりである。回答内容のうち、2 名の学生が「イメージ」というワードを挙げていた。また、「実際の」「具体的な」「現実的」といったワードが散見された。今回のイベントは、学生たちによって「公務員のリアルを聴こう!」というタイトルが設定されているが、まさに自分たちが「イメージ」としてしか認識していない公務員像について、そしてその仕事について、「実体としてつかみたい」という意識を持っていた様子が窺われた。

②ゲストに聞きたいこと 実際にゲストである公務員の方々に何をお聞きしたいのかについて

<sup>2</sup> なお、本稿に掲載の Table1～8 および 13、14 の ID は共通しており、同一 ID は同一回答者である。同様に Table9～12 の ID

も共通しており、同一 ID は同一回答者である。

Table4 イメージする時間となるために重要なこと に関する記述

ID	記述の概要
1	皆が気になっていることを解決するために最適なものを提供すること 難しい点は、リサーチをどのようにするか、および準備段階での先方との調整
2	座談会で無言の時間が生まれること
3	活発に意見交換ができることが重要 時間も短いのでゲストの方に創生学部について詳しく知っていただくのは難しいのかなと思っている
4	イベント参加後の個人のフィードバックやアウトプット イベント開催者とゲストとのイベントに対する情報の差を無くす、両者のイベントに対する理解

Table5 意気込みなど に関する記述

ID	記述の概要
1	公務員の方に創生学部を知っていただける機会でもあるので、いい印象を与えられるように頑張りたい
2	イベント全体の流れがうまくいくかどうか心配 全員で最終確認ができていないので、情報共有をきちんとしたい
3	このイベントを企画して、自分がいろいろ考える機会になるのはもちろん、参加者、ゲストの方全員が参加してよかったなと思うようなイベントにしたい
4	そもそも論になるが、イベント企画方法を知らないまま進めていったため、イベント企画方法を事前にメンバーで理解・共有するべきであった どうすれば参加したくなるイベントになるのか、対象者は何を求めているのかを知るとさらによい企画になったと思う

問うた設問②への回答について Table2 にまとめた。自分が見聞きして認識している公務員像の実際を確認するような内容 (ID1) やそれをさらに具体的に深く問うような内容 (ID3)、ゲストの方が就職後、そうした事前のイメージと現実とのギャップを感じたかを確認する内容 (ID2) のほか、イベント自体の成否を確認するような内容 (ID4) もあった。このあたりの回答からは、現在の自分のイメージと現実との乖離に対する彼らの不安が反映されているとみることができるだろう。

**③どのような時間となるかのイメージ** 次に、イベント自体がどのような時間となるかのイメージについて問うた結果をまとめたものが Table3 である。「迷っている」「不安」「疑問」といったネガティブなワードと「有意義」「やりがい」「意欲的」といったポジティブなワードが散見された。ここから、イベントに対して、「不透明な現在」というネガティブな状況が「明確な将来を描ける」というポジティブな状況に変わることを期待していることが示唆される。

**④イメージする時間となるために重要なこと** この設問は、実際にイベントを成功させるために

何が必要かという点について、学生自身がどのように考えているのかを問うものである。その概要は Table4 にまとめた通りである。「無言の時間」「活発に意見交換」「両者のイベントに関する理解」とあるように、学生たちは参加者相互の理解と交流がカギだと認識していた様子である。ただし、今回こうしたイベントに携わった経験のある学生が少なかったこともあり、イメージする内容の具体性についてはやや乏しいと言える。

**⑤意気込みなど** Table5 はイベントに臨むにあたっての意気込みを問うた設問⑤をまとめたものである。全体に事前の準備不足を不安に感じている記述がみられる。参加者として学びのきっかけにしたいという思いも示されているが、それ以上に、主催者としての責任を感じていることが窺われた。

### 3) 結果と考察2 (事後アンケート)

次にイベント終了後、学生たちがイベントを経験して自分自身に生じた変化や、学んだと感じたことを検討するため、事後アンケートの設問①から③の回答について整理した。なお、設問④および⑤については、イベントの振り返りやその他感

Table6 率直な感想 に関する記述

ID	記述の概要
1	印象的だったことは風邪予防の重要性である。事前準備では欠席者のことを考慮していなかっただけに、スタッフには大きな迷惑をかけてしまったので、今後は、あらゆる可能性や細かい準備に心がけていきたいと思った
2	ひとまず無事に終わってよかった。公務員の方に自分の悩みや考えを相談することでアドバイスをいただき、自分の将来像についてイメージしやすくなった
3	スタッフの欠席という緊急事態もあったが、無事にイベントを終わらせることができてとてもよかったし、安心した。ゲストの方に聞きたかったことを聞くことができたし、今まで公務員の仕事や日常まで詳しく知る経験はなかったが、ゲストのお二人が私たちの質問にとても快く答えてくださったことが印象に残った
4	総じて、イベントを主催したことは良い経験であった。印象的だったことは、人事委員会の目黒さんがおっしゃっていた「公務員は課の移動があり多様な仕事をこなすが、新潟市の為に働いているということは変わらない」という言葉である。公務員の本質であると思った

Table7 意識や価値観の変化 に関する記述

ID	記述の概要
1	当日いなかったで印象は、イベント前後で特に変化はない。今は公務員が安定している職業であること以外の魅力は何だろう、と考えていると思う
2	公務員の仕事は同じことの繰り返しでつまらないと感じるかもしれないと思っていたが、相田さん・吉澤さん・目黒さんの話を聞き、公務員のやりがいというものを自分なりにイメージできるようになった。また、若手職員の勉強会が存在することも知り、意外とフランクな職場なのかなという印象を持った
3	私は公務員と聞くと、事務的な作業が多く、真面目でかたい方が多いのかなという印象で、このイベントがうまく盛り上がるのかという不安もあった。しかし、ゲストの方はとても明るく優しく質問に答えていただいたり、お話ししてくださったりした。また、お二人ともたくさんのお仕事を経験されていて、いろいろな人と関わったり、観光客増進のためのお仕事をされたりしていて、将来公務員になりたいという気持ちが以前よりいっそう強くなった。
4	イベント前、公務員は機械的に事務を行うつまらない職業であるというイメージを持っていた。しかし、イベント参加後、イメージが一新した。公務員は一つの業務内容にとらわれない、とてもやりがいのあるお仕事であると思った。自分の学びや趣味を活かされていたり、家庭と仕事を両立されていたり、お二人ともアクティブにお仕事をされていた。仕事は人生の一部であり(ワーク・イン・ライフ)、仕事が充実していたり、やりがいを持っていたりする人は人生そのものが充実していると感じた。自分の好きなことを仕事にして仕事自体を楽しんだり、逆に、仕事を楽しむために何らかのサポートを取り入れたり、何かを足し入れたりしたりと、共通して仕事にやりがいを持つという観点はとても重要であると思った。ワークとライフの充実に興味が沸いた。

想についての回答であるため、本文では直接言及せず、文末に資料として添付するととどめる。

①率直な感想 Table6 は、イベントを終えての率直な感想についてまとめたものである。なお、1名の学生については、体調不良によりイベント当日欠席となってしまったため、事後アンケートの回答内容について、設問にうまく対応していない箇所がある。

回答からは、イベントが無事終わったことに対する安堵や、将来に対するイメージがさらに膨らんだ様子が窺われる。また学生たちが、公務員の内実、さらには、その本質的についてまで触れることができた認識している様子も伝わる。

②意識や価値観の変化 イベントの事前と事後での意識の変化についての回答は、Table7 のとおりである。そもそもアンケート全体として、事前アンケートにおけるやや具体性に乏しく漠然とした回答内容および文量の乏しさに比して、事後アンケートではより具体的でかつ、より多くの記述がみられることは一目瞭然である。特に、意識や価値観の変化を問うた本設問では、それが顕著に表れている。

さて、具体的な回答内容からは、「つまらない」「同じことの繰り返し」「事務的」「機械的」といった、いわゆる官僚制の弊害としてステレオタイプに語られる公務員のイメージから、「やりがい」

Table8 主催者として参加しての違い に関する記述

ID	記述の概要
1	ゲストとの連携を取ったり、事前準備をしたりする際の自分たちの改善すべき点がたくさん見つかったので、今後の生活に生きてくる経験だったと思う
2	当日だけ参加する場合とは違いがあったと思う。今回はイベント時間が少ない分、ゲストの方との打ち合わせや雑談で参加者と比べ打ち解けることができた。そのため、自分の聞きたいことや不安に思っていることを率直にゲストの方に質問することができた
3	違いはあった。イベントを主催する立場となるとイベントの前段階で、当日までに何をしておく必要があるのか、当日有意義なイベントを行うためにはどのような進行を行っていくべきなのかということを考える必要がある。そのような経験は将来何かの役に立つと思うし、参加者と主催側ではイベントにかける思いが違うので、参加者よりもこのイベントで学ぶことができたことはたくさんあると思う
4	有意義な経験であったと思う。当日だけ参加した場合と比較して、違いがあったと思う。参加者としてイベントに参加するのではなく、主催者側としてイベントに対して向き合うことができた。具体的には、参加者は何を求めてこのイベントに参加するのか、そのためにはどのような流れを作るべきか等を考えたり、ゲストの方々へお願いの際の礼儀・作法などを学んだりした。様々な方からのご支援・ご協力があって、初めてイベントを行うことができたと実感した。イベントを主催するのは初めての経験であったので、経験することができて良かった。大きなイベントでも、小さなイベントでも、イベントを開催する目的がある。それは参加者として感じると義務があると思った

Table9 参加して印象に残ったこと に関する記述

ID	記述の概要
1	新潟市役所の人たちは堅くなく、良い意味で普通な人、"人が良い"人がたくさんいる
2	「部分休業」という制度を初めて知った
3	公務員試験は筆記も大切だが、それ以上に面接が大切 市のためにやっている仕事だと思えば、異動があってもモチベーションが下がることがない
4	民間と公務員を同時に志望することもできる 中国語のようにできる人が少ないことは強みになる
5	公務員のイメージ、ネットや本で調べて出てくることより、より身近に公務員のこと
6	公務員は想像以上にやりがいのある仕事である
7	公務員は福利厚生がしっかりしているということ 男女双方の育休取得や部分休業といった制度はとても魅力的
8	思っていたよりくだけた話し方で公務員の方たちが接してくださったことが印象に残っている
9	思っていたより職場環境（働きやすさ）が良さそう
10	公務員の定時が17:15であること
11	スピーカーが公務員のデメリットはあまり思いつかないと話していたことが印象的だった
12	人と接する力というのはどこでも求められるのかなと思った
13	公務員という仕事が想像していたよりもとても幅の広いものであること

「アクティブ」「楽しむ」「フランク」などのポジティブなイメージに彼らの意識が変化した様子が窺われた。学生はイベントを通じて、働くということの主体的な側面を認識したことが示唆される。

③主催者として参加しての違い イベントの主催者として参加しての、一般参加者として参加した場合との違いについて尋ねた。その回答をまとめたものが Table8 である。イベントの企画・運営

に関するいわばマネジメント経験が、自らの学びになったと感じている様子であったほか、ゲストとの密な関係性について触れた回答も見られた。

#### 4) 結果と考察3 (参加者アンケート)

イベント終了後には一般参加学生に対してもアンケートを実施した。その意図は、イベントの成否を確認することのほか、運営主体となっていない学生たちは、一体当該イベントからどのようなことを得ることができたのか、現時点で将来の

Table10 気づいたこと、もっと知りたいこと に関する記述

ID	記述の概要
1	外国語は完璧に覚えたり使えるようになることが必要なわけではなく、ある程度でコミュニケーションをとれることが大切
2	公務員の仕事の幅の広さを改めて感じた
3	公務員と民間企業の違いをもっと詳しく知りたいと感じた
4	公務員の人の就活についてもっと興味がわいた
5	公務員講座は受けていなくとも、自力で勉強して何とかできるかもしれないということ
6	就職活動の流れややり方について
7	今回と比較するといった意味合いも含めて民間の人からの意見も聞きたい
8	実際に話を聞いてみないとイメージがつかめない
9	公務員と民間企業のどちらも経験した人のお話も聞いてみたい（中途採用が増えているとお聞きしたので）
10	思ったよりお堅い職業でもなかった気がする
11	部署の種類や、それぞれに何の知識が必要とされるのかについて知りたい
12	民間と公務員とどちらも準備するという選択もあるということ
13	どの仕事についても”自分のため”にするのではなく、”人のため”にすることを考えて取り組むことが大切だと再認識することができた

Table11 将来の仕事やキャリア に関する記述

ID	記述の概要
1	グローバルを意識して、公務員になりたい
2	公務員
3	公務員、民間企業に関わらず、中心市街地の活性化に携わることのできる仕事
4	民間か公務員かで迷っている
5	公務員、カフェ、アパレル
6	公務員、民間
7	民間希望（職種は未定）
8	民間か公務員かで迷っている
9	民間か公務員かで迷っている
10	民間か公務員かで迷っている（やや民間より）
11	民間
12	－
13	未定

キャリアについてどのような展望を見据えているのか等について把握することが狙いである。

① 印象に残ったことについて はじめに、参加してみて印象に残ったことについて尋ねた。その回答をまとめたものが、Table9 である。「イメージ」「想像」「思っていたより」というワードに代表されるように、自分たちが頭の中である種の公務員像を構築していること、そしてそれが転換した様子が窺われる。また、「部分休業」「福利厚生」「育休取得」「職場環境」「働きやすさ」というような、職場環境に関わるワードも散見された。

② 気づいたこと、もっと知りたいことについて 次に、参加しての気づき、今後に向けてさらに知りたいと感じたことについて尋ねた。その回答をまとめたものが、Table10 である。ID6 の回答に代表されるように、「実際に公務員になるためにはどうすれば良いのか」といった観点での回答が散見された。

③ 将来の仕事やキャリアへの希望について 次に、将来に仕事やキャリアへの希望、現時点での関心について尋ねた。その回答をまとめたもの

Table12 感想など に関する記述

ID	記述の概要
1	分野の違うお二人だったので、様々なお話を聞けて良かった
2	今回のイベントに参加して良かった 自分の将来について改めて考えるきっかけにしたい
3	－
4	今回の会に参加して、公務員に対する良いイメージが増えた 自分の強みになることを大学時代に身につけるモチベーションが上がった またこのような機会があったら積極的に参加したい
5	現役で公務員として活躍しているお二方の実際の声を聞くことができ、自分の質問に対しての回答も頂くことができ 良い機会だった
6	こういう機会がまたあったら積極的に参加したい
7	－
8	－
9	－
10	とてもいい会だった 企画してくださった学生の皆さん、先生方に感謝
11	－
12	－
13	何となく参加したイベントだったがやはり自分から動いて行動することの大切さがわかった

が、Table11 である。公務員を単独で志望しているとした回答が2件あり、うち1件は、その意識についても記載があった。公務員と民間を併願（いずれか迷っているとした回答も含む）しているとした回答は7件、民間単独で志望しているとした回答は2件あった。これらの回答のうち1件は具体的な職種についてもあわせて回答があった。なお、未定、無回答はそれぞれ1件あった。

④ 感想などについて 最後に、参加しての感想などについて尋ねた。その回答をまとめたものが、Table12 である。「きっかけ」「機会」「積極的」「自分から」といったワードが散見され、イベントを通じた意識や行動変容の可能性が示唆された。なお、本設問については、無回答も6件あった。

### 3 まとめ

本稿では、第3回キャリアイベントにかかる、学生メンバーへの事前・事後のアンケート調査および、一般参加学生へのアンケート調査、各々の結果を整理し、考察を試みた。最後に本結果から示唆される点について指摘するに先立ち、本稿の限界について触れておきたい。

今回考察を試みたアンケート調査について、科

学的な分析に用いるデータとしては、質・量ともに不十分であることは否めない。今後同種の取り組みの継続によるデータの蓄積によって、より精緻で客観的な分析による補強が求められる。しかしながら、こうした学生の率直な感想や思いについて、ありのままに受け止め、今後における学生へのキャリアにかかる指導やサポート体制について検討することにも、一定の意義は認められよう。

さて、そこでデータ上の限界は認めた上で、本稿から示唆される点を示して本稿を締めくくりたい。それは、第1に現場の生の声を直接学生に届けることについての影響力の大きさである。近年、課題解決型学習などの進展によって、五感を通じた学びの意義が認識されるようになってきているが、現場を自分の生の体験として直に感じるものが、とりわけ意識転換や、学びのモチベーション向上にとって効果的な可能性があるのではなかろうか。

第2にスタッフとしてイベントに関わることに  
よる効果である。スタッフとしてイベントを企画  
するということは、イベント参加者を想定し、そ  
こにどんなニーズがあり、いかにすればそのニー  
ズを満たすことができるのかを考えるというこ

とである。それはイベントが自分のためにあると  
考え、自分がそのイベントから何を得られるのか  
ということを第一に考えるような、「自分目線」か  
らは一度離れ、第三者の目線を想像するというこ  
とである。客観化してイベントを捉え、そこから  
再び自身の学びへと転化するというステップを  
通じて、責任感を伴った主体的な学びへとつなげ  
られるのではないだろうか。

第3に上記第1の効果は、第2の効果との相乗  
効果によってさらに増大する可能性があるとい  
うことである。すなわち、スタッフとしてイベン  
トに関わることから生じる責任感とそれに付随  
する主体性によって、現場を自分の生の体験と  
して直に感じる効果（＝意識転換や、学び  
のモチベーション向上）はより増大するというこ  
とである。

以上が本稿を通じて示唆される点である。今回、  
本イベントを経験した学生は、今後いかなる成長  
を遂げていくのであろうか。引き続き、彼らをサ  
ポートしつつ、その行方を見守っていきたい。

#### 4 引用文献

- 堀籠崇（2018）．本実践の位置づけと経緯 創生  
ジャーナル Human and Society, 1, 4-6.
- 創生ジャーナル Human and Society 編集委員会  
（2018）．キャリアイベントに関する学生の  
意識—アンケートおよび終了後の座談会か  
ら— 創生ジャーナル Human and Society, 1,  
19-27.



【参考資料】Table13 予定通りに行った点、次回への課題 に関する記述

ID	記述の概要
1	予定通りに進んだと思う点はあまりない。強いて言えば、4人の集まるペースは予定通りだったと思う。次回以降では広報活動の重要性をもっと考慮したり、スケジュール調整などを細かくまとめたりするなど、より丁寧に対応していきたいと思った
2	時間管理がうまくいったと感じた。今回はイベント時間が短かったため、学生とゲスト間の打ち解けがうまくいかなかった。次やるとしたら、アイスブレイクをイベントに取り入れたい
3	スタッフの欠席があったが、たくさんシミュレーションも行っていたので進行をうまく回すことができたし、だんだん時間がずれてきても、しっかりと調整することができたところが良かった。気を付けたいと思った点は、ゲストの方のお迎えをする係だったのだが、ゲストの方が先に着いていて待たせてしまったことがとても申し訳ないと思った
4	当日は〇〇さんが欠席してしまい、役割分担に変更があったが対応することができたと思う。これは、メンバー間で情報の共有・意思疎通ができていたからであると思う。積極的な参加者が多かったため、座談会時はあまり沈黙が見られなくてよかった。事前アンケートに記入済みであるが、右も左も分からない状態からスタートしたため、イベント企画の方法を学ぶ機会があればよかった。広報を効果的に行うこと。(初めは参加者が少なかった)ゲストの方々をお呼びするだけでなく、新しい形の「キャリアイベント」を期待したい(学生という立場を無くしたい)

【参考資料】Table14 感想や意見 に関する記述

ID	記述の概要
1	ー
2	準備期間はトラブルやミスなどが多く本番がうまくいくかとても不安だったが、無事本番を終えることができ良かった。メンバーそれぞれが協力して本番まで準備をし、互いのミスをカバーし合えたのではないと思う
3	今回でイベントを企画運営したのは2回目だったが、1回目よりも自分の意見が言えたり、たくさん仕事に関わることができて良かった。また機会があったら企画運営に携わりたいと思った
4	公務員試験を頑張ろうと意気込むことができた。今回はゲストの方々が身近な社会人の方であったため自分に落とし込んで考え易かった